

エコアクション 21

環境経営レポート

令和 5 年度
(令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月)



丸 喜 鋼 業 株 式 会 社

作成 令和 6 年 7 月 23 日

1. 組織の概要

①事業所名 丸喜鋼業株式会社
 代表者氏名 代表取締役社長 川口貴弘

②所在地 〒807-0811
 福岡県北九州市八幡西区洞北町1番3号

③環境管理責任者
 管理部 部長 森 卓民

連絡先 : E-mail : mori-takumi@maruki-k.co.jp
 電話 : 093-691-1300
 F A X : 093-603-6534
 U R L : <https://www.maruki-k.co.jp>

④事業の内容
 鉄鋼製品の販売・加工、非鉄金属製品の販売・加工
 配管材料の販売

⑤事業の規模

活動規模	単位	令和3年	令和4年	令和5年
主要製品販売量	t o n	9,351	10,640	9,705
売上高	百万円	1,720	2,248	2,134
従業員	人	29	31	35
床面積	m ²	4,396.62	4,396.62	4,396.62

※「事業年度 4月1日～翌年3月31日」

⑥事業の経緯

パイプの専門商社として1963年（昭和38年）6月26日に、川口昭蔵が北九州市小倉北区にて資本金100万で創業。以来、お取引様とのご縁に恵まれ、順調に事業を拡大。今日ではパイプの流通のみならず、切断加工、鋼管、鋼材、鋼板、非鉄金属、配管材料などの専門商社として、確かな基盤を確立するにいたりました。

特にパイプの加工には力を入れており、平成9年にはパイプコースターというパイプの3次元加工の出来る機械を導入。東京スカイツリーや北九州スタジアムの加工も手掛けさせていただきました。現在は風力発電施設に関わる加工も受注しております。

パイプコースターにつきましては令和元年度に1500の大型機を追加導入し3基体制とし、同様に2基体制の超硬機、又、開先機による加工も含め、加工部門を強化して更なるお客様のご要望にお応えすべく、努力しております。

パイプコースター事業部では平成29年にISO9001の認証を取得しました。

これからも感謝の心を忘れず、お客様と地域社会のニーズに応え、誠実をモットーに100年企業を目指して、前進いたします。

2.実施体制

					承認者	作成者
					森 卓民	森 卓民
EA21実施体制						
		代表取締役				
		川口 貴弘				
		環境管理責任者				
エコアクション メンバー					EA21事務局	
営業部		現業部		管理部		
役割分担表						
氏名	所属		役割 ・責任 ・権限			
川口 貴弘	代表取締役	全体統括、環境方針の設定、環境への取組を実施するための				
		資源の準備、全体の評価と見直し				
森 卓民	管理部	全体の把握/環境管理責任者、環境経営システムを構築し、				
		運用し、その状況を社長に報告する				
臼井 亮祐	現業部	工場の加工重量管理と、廃棄物排出量の管理				
		不良品発生の管理・発生時の調査検証				
森 卓民	管理部	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理				
森 卓民	管理部	電力、水及び車燃料、灯油消費量の管理				

認証登録範囲：全社全組織とする

3. 環境経営方針（令和 3 年 4 月 1 日改訂版）

環 境 経 営 方 針

丸喜鋼業は、経営理念を軸に企業活動を通じて地球環境の問題が人類共通の重要な課題である事を認識し、地球環境の保全に努め、環境と調和した豊かな社会づくりに貢献します。

1. 丸喜鋼業は、自社の行う事業活動の全域で、二酸化炭素削減に向けた“地球環境保全へのたゆまぬ配慮”に努め、品質・価格・納期と同様環境面でも、『お客様』から信頼される企業を目指します。

この実現の為に、次の行動方針を定めて取り組みます。

- (1) 水、電気、燃料等、資源やエネルギーの使用料を低減致します。
 - (2) 産業廃棄物の排出量を削減し分別を徹底し、再資源化を推進します。
 - (3) エコドライブを推奨して、省資源化に努めます。
2. 環境関連法令とわが社が受入れを決めた基準を遵守致します。
 3. この環境経営方針のもとに自主管理基準を設け環境目的、環境経営目標を定め、見直しを行い環境管理のレベルの向上を図ります。
 4. この環境経営方針を全社員に周知徹底すると共に環境保全の意識を高め、社内における環境保全状況の向上を積極的行います。
 5. 経営における課題とチャンスを踏まえて、持続可能な目標を立てて経営をします。
 6. 安全第一を最優先とし、無災害記録の更新を推進します。
 7. 環境経営の持続的改善を誓約します。

令和 3 年 4 月 1 日改訂

丸 喜 鋼 業 株 式 会 社
代表取締役社長 川口 貴弘

4.環境経営目標と実績

①環境負荷の現状と環境経営目標の設定について

		単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	二酸化炭素排出量	K g -CO ₂	57,792	61,267	142,346
2	廃棄物排出量	t	3.72	3.81	7.00
3	総排水量（給水量）	m ³	545	530	628
4	販売重量（扱い）	t	9,351	10,640	9,708
5	加工重量	t	2,207	2,225	4,467

※R3～4年度の数値は、旧基準（H21年度）での算出方法による実績値

この中で二酸化炭素排出量については、工場使用エネルギーは加工重量、販売に供する自動車燃料等は販売重量での対比にて行い目標を設定する。

廃棄物排出量については一般ゴミに限定する（R5年度からは、古紙も含めた）。

今年度以降の目標（*注：中期目標）改訂版

環境経営目標	単 位	R4年（基準） （R4年4月～ R5年3月）	R5年度 （R5年4月～ R6年3月）	R6年度 （R6年4月～ R7年3月）	R7年度 （R7年4月～ R8年3月）
工場二酸化炭素 排出量の削減	加工重量当たり （Kg-CO ₂ /トン）	21.1 （基準） 電気【0.479】 プロパン【3.00】	21.1 以下 （0%） 電気【0.479】 プロパン【3.00】	20.9 以下 （1%）	20.7 以下 （2%）
販売部署 二酸化炭素排出 量の削減	販売重量当たり （Kg-CO ₂ /トン）	4.33 （基準） ガソリン【2.32】 軽油【2.61】	4.33 以下 （0%） ガソリン【2.32】 軽油【2.61】	4.29 以下 （1%）	4.24 以下 （2%）
廃棄物排出量の 削減	加工重量当たり （kg/トン）	1.53 （基準）	1.53 以下 （0%）	1.51 以下 （1%）	1.50 以下 （2%）
総排水量の削減	販売重量当たり （m ³ /トン）	0.049 （基準）	0.049 以下 （0%）	0.048 以下 （1%）	0.048 以下 （2%）
不良品の発生数	件	0 件	0 件	0 件	0 件

※CO₂ 排出係数：九州電力令和4年度実績 調整後排出係数 0.479 kg-CO₂/kWh

備考：（%）は、R4年度実績をベースとして削減率を示す。

【 】は、CO₂ 排出係数を示す（単位 電力 kg-CO₂/kWh 燃料 kg-CO₂/L）

R5年度以降の目標については、新基準をベースとして削減率を示す。

化学物質については使用をしていないので、項目除外とする。

不良品の発生数については、工場で加工した製品について、形状間違いが納品後に発覚した場合のクレーム件数とする。

R4年度までの目標については、H21年度の販売&加工重量をベースに基準を設け、それに対する削減率を基に設定していたが、現状の重量とは乖離があり、審査の中でもご指摘も頂いたことからベースを変更することにした（コロナ前過去10年 H21～R元年度平均販売重量 14,416t）。

まず加工重量については、H21年度以降に設備投資された加工機による重量について算入されておらず、上記ではR4年度加工実績は2225tとしているが、実際には4711tが正しい加工重量とな

B 6

る。R4 年度については旧基準対応という事で、算出方法は前年度と同じにしたが、今回新基準に変更したことにより、R5 年度以降については正しい加工重量を算出することにした。

電力については R3 年 3 月より CO2 排出係数 0 の再生可能エネルギー枠にて契約切替をし、大幅な削減と目標達成率になっていた。しかし昨今の新電力単価の高騰により、経費予算の関係上、当契約を維持することが困難になり、残念ながら R5 年 3 月より九州電力（R4 年度 CO2 排出係数 0.479kg-CO2/kWh）に契約切替となった。これにより、R5 年度以降の新基準算定については、R4 年度実績を係数 0.479kg-CO2/kWh で試算したものとした（99,297kg-CO2）。

よって、工場の CO2 排出量削減目標は、
試算した R4 年度実績 $99297 \div R4 \text{ 年度正加工実績 } 4711 = 21.1$ とした。
販売部門の CO2 排出量削減目標は、算出方法について変更無しとした。

廃棄物排出量の削減目標については、R4 年度まで一般ゴミに限るとしていたが、ペーパーレスによる古紙の削減も取り組みとして掲げているため、数値確認と意識付けのため R5 年度より古紙の重量も対象とした。それに伴い、R4 年度の一般ゴミと古紙の廃棄実績を基に、R5 年度以降の目標を算定し、

$(R4 \text{ 年度一般ゴミ } 3810\text{kg} + R4 \text{ 年度古紙 } 3420\text{kg}) \div R4 \text{ 年度正加工重量 } 4711 = 1.53$ とした。
総排水量の削減目標は、算出方法について変更無しとした。

②目標設定と実績

新基準の算定方法については、「①環境負荷状況と環境経営目標の設定について」にて記載した通りとする。ただし、R4 年度までの環境経営目標は、旧基準（H21 年度）での算出方法による数値と、それに対しての削減率を定めていたため、下記においては対象外とする。

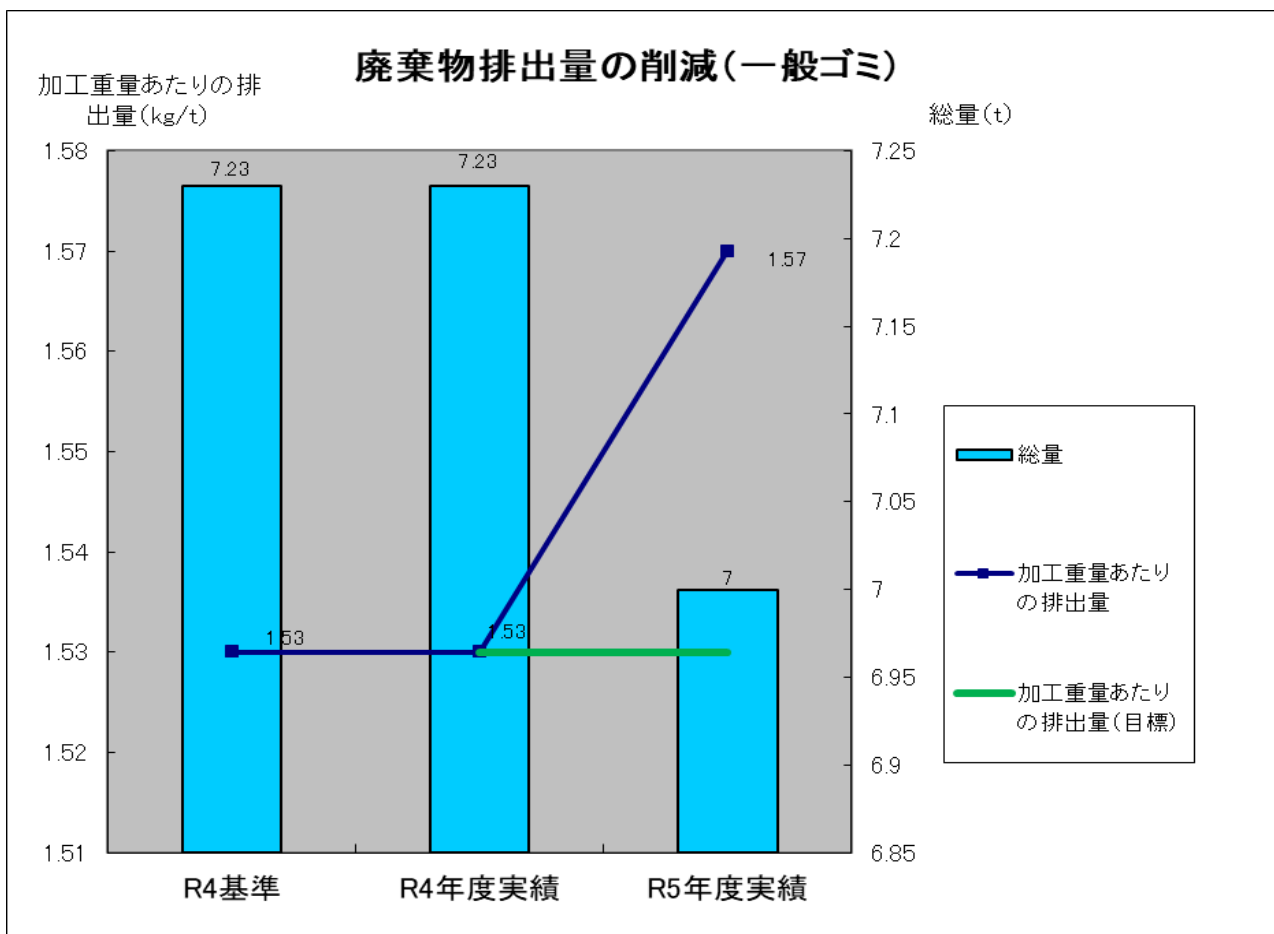
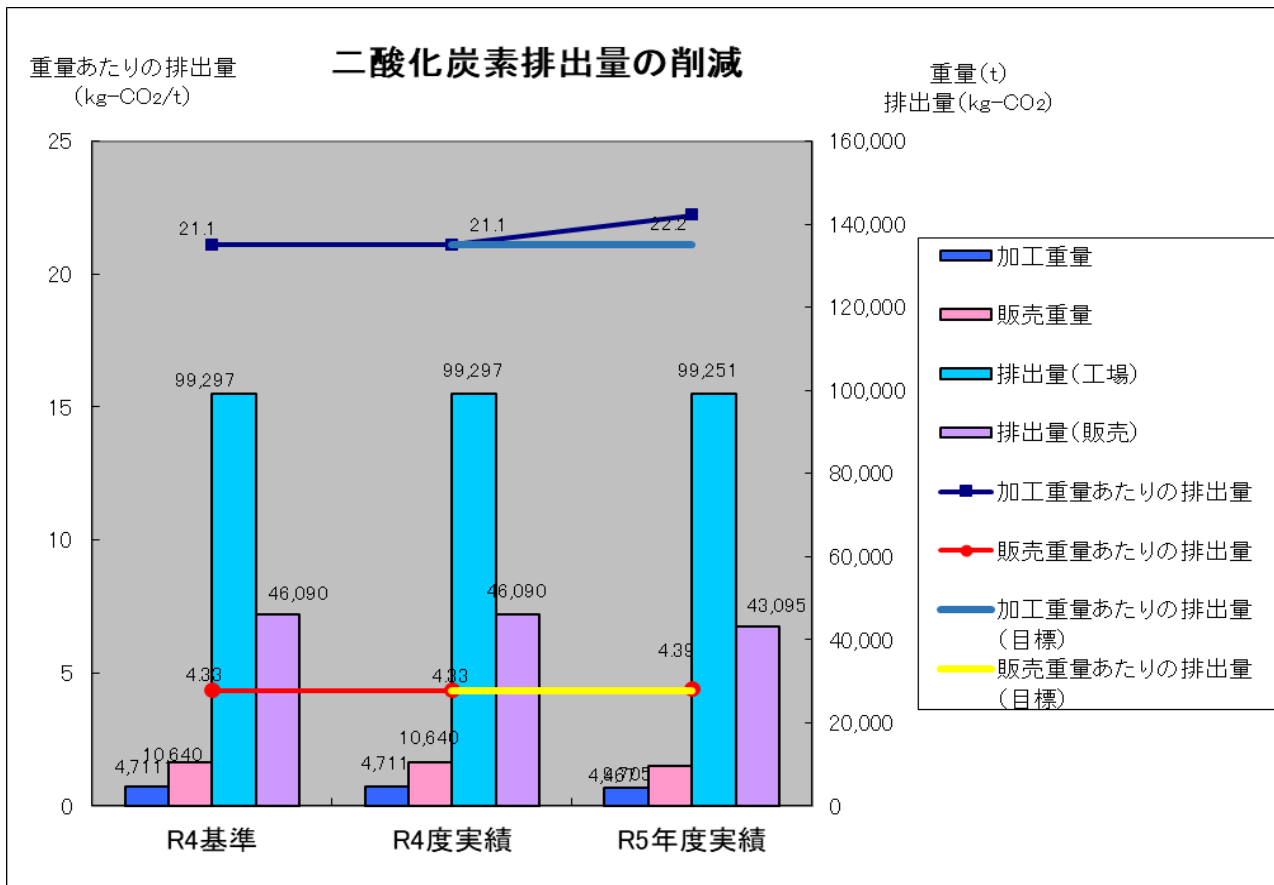
【 目標 】

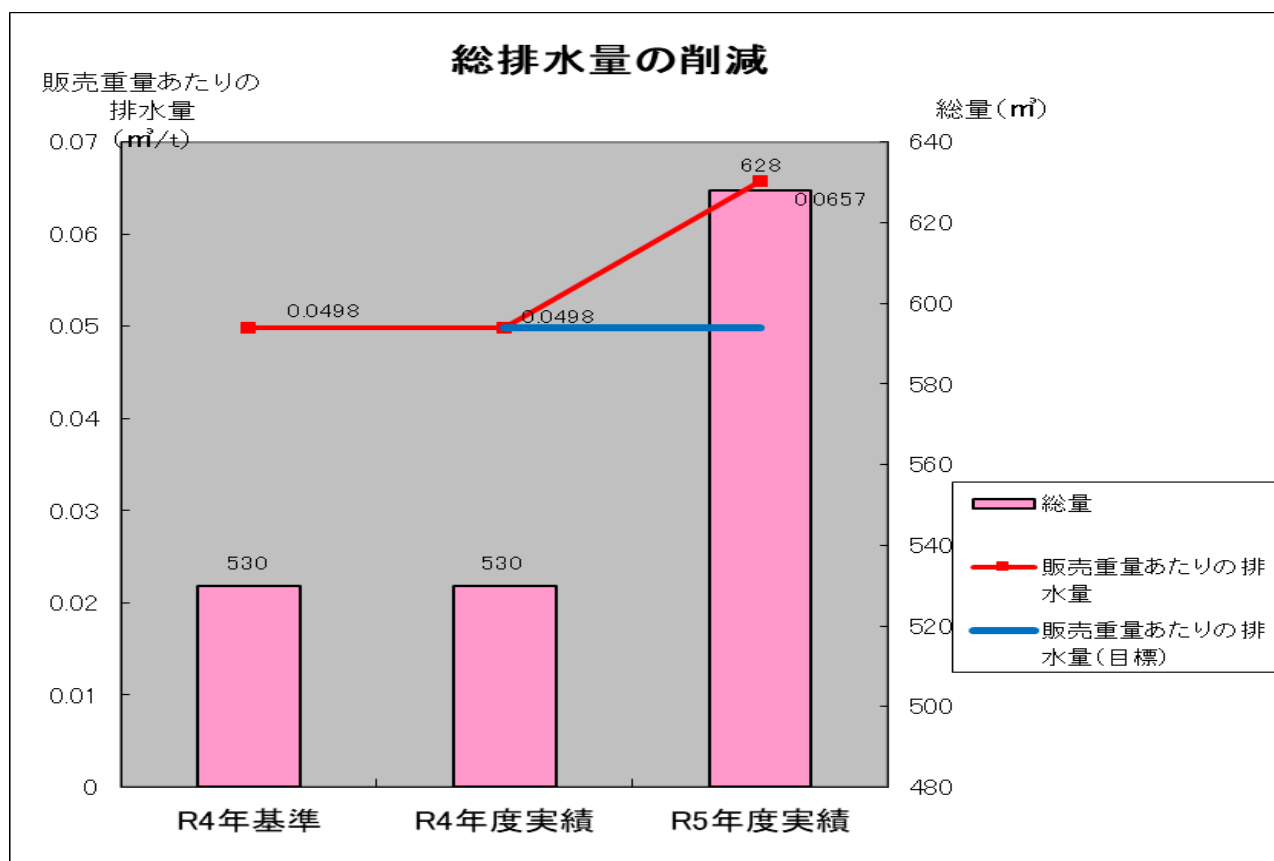
環境経営目標	単 位	R4 年 基準	R3 年	R4 年	R5 年
二酸化炭素排出量の削減（工場）	加工重量当たり (Kg-CO ₂ /t)	21.1	—	—	21.1
二酸化炭素排出量の削減（販売）	販売重量当たり (Kg-CO ₂ /t)	4.33	—	—	4.33
廃棄物排出量の削減	加工重量当たり (kg/t)	1.53	—	—	1.53
総排水量の削減	販売重量当たり (m ³ /t)	0.0498	—	—	0.0498
不良品の発生件数	件	0	—	—	0

【 実績 】

環境経営目標	単 位	R4 年 基準	※R3 年	※R4 年	R5 年
二酸化炭素排出量の削減（工場）	加工重量（t）	4,711	2,207	2,225	4,467
	排出量 (Kg-CO ₂)	145,388	11,076	15,176	99,251
	加工重量当たり (Kg-CO ₂ /t)	21.1	5.0	6.8	22.2
二酸化炭素排出量の削減（販売）	販売重量 (t)	10,640	9,351	10,640	9,705
	排出量 (Kg-CO ₂)	46,090	46,716	46,090	43,095
	販売重量当たり (Kg-CO ₂ /t)	4.33	5.00	4.33	4.39
総 合 計	排出量総量	191,478	57,792	61,266	142,346
廃棄物排出量の削減（一般ゴミ）	総量 (t)	7.23	3.72	3.81	7.00
	加工重量当たり (kg/t)	1.53	1.68	1.71	1.57
総排水量の削減	総量 (m ³)	530	545	530	628
	販売重量当たり (m ³ /t)	0.0498	0.0582	0.0498	0.0657
不良品の発生件数	件	0	0	0	0

※R3～4 年度の実績数値は、前基準での算出方法によるもの





5. 環境経営計画

5. 1. 二酸化炭素排出量削減のための取組目標と取り組み方法

(1) 電気使用量の対前年比減

- ① 工場不要時の機器の停止 (担当：臼井)
- ② 使用していない部屋やトイレは消灯する (担当：大塚)
- ③ エアコンフィルターの清掃 (担当：森)

(2) 軽油及ガソリン使用量の対前年比減

- ① エコドライブの推進 (担当：福森)
- ② 不用な荷物は積まない (担当：福森)
- ③ 空気圧のチェック (担当：森)
- ④ 社有車のEV化 (担当：森)

5. 2. 廃棄物排出量削減のための取組み

- ① 工程改善等による不良品発生率の低減 (担当：臼井)
- ② 社内用文章の裏面コピーの徹底実施 (担当：大塚)
- ③ ペーパーレスを促進し、会議資料のデータ化 (担当：森)

5. 3. 総排水量削減のための取組

- ① 自動車を洗う時は、出来るだけバケツで洗う (担当：福森)
- ② 蛇口付近に節水シールを貼付し啓発 (担当：森)

5. 4. 不良品の発生件数

- ① 出荷製品に対してのチェック強化 (担当：臼井)

6. 環境経営目標の実績、取組結果の評価及び次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境活動のエネルギー別の CO₂ 量の取組結果評価及び次年度の取組内容

エコアクション 21 を試行した平成 18 年 11 月から経て、令和 5 年度における目標に対する実績は次のとおりであった。

電気排出量については CO₂ 排出係数を九州電力令和 4 年度の 0.479 kg-CO₂/kWh にて算出。

目標	単位	令和5年度目標	令和5年度実績	目標達成率
工場二酸化炭素排出量削減	Kg-CO ₂ /t	21.1 以下	22.2	95%
（電気の使用量の削減）	Kg-CO ₂ /t	19.6 以下	20.3	96.5%
（プロパン使用量の削減）	Kg-CO ₂ /t	1.5 以下	2.0	75%
販売二酸化炭素排出量削減	Kg-CO ₂ /t	4.33 以下	4.39	98.6%
（軽油使用量の削減）	Kg-CO ₂ /t	1.90 以下	2.04	93.1%
（ガソリン使用量の削減）	Kg-CO ₂ /t	2.43 以下	2.35	103.4%
総廃棄物排出量の削減	Kg/t	1.53 以下	1.57	97.5%
総排水量の削減	m ³ /t	0.0498 以下	0.0657	75.8%
不良品の発生数	件	0 件	0 件	100%

6.1 二酸化炭素排出量の削減

R4 年度内に実施した工場照明の LED 化、太陽光パネル&蓄電池の設置、EV 車の導入などの取り組みについては、CO₂ 排出量削減に寄与しており、個人だけでなく会社としてエコを意識することが出来たのは良かったと考える。R5 年度以降はとりえず新基準をベースに目標設定をし、電気契約や EV 車のさらなる導入については都度検討をしていく予定である。

6.2 総廃棄物（一般ゴミ）量排出量の削減

R5 年度からは古紙の重量も廃棄物の総排出量に追加した。古紙を含めたうえで、R4 年度実績と比べ総排出量は減少出来ているのは良かった。ただし販売重量が減少したため、加工重量あたりの数値に直した場合、昨対で増加してしまったのは残念だった。

6.3 総排水量の削減

昨年度比で 131.9%と、排水量が大きく増加してしまった。加工重量減も要因のひとつではあるが、2024 年 1 月以降の排水量の増加率が高く、原因調査が必要である。

6.4 不良品の発生と対策

R5 年度においては、不良品の発生は認められなかった。

7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

7.1 環境関連法規等の一覧

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

消防法

電気事業法

フロン抑制規制法

詳細 別紙 環境関連法規等取りまとめ表にて

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情もありませんでした。

7.2 周辺及び工場内環境美化活動の推進

当会社所在地地域は工業地域であるので、工場内の空き地に緑化や花植え活動を行っている。

工場内環境美化活動（写真 1・2）



8. 代表者による全体評価と見直しの結果

今年度より新基準での目標設定となったが、達成できなかった点について、調査と改善を指示する。また環境経営方針の6番 安全第一については最重要視し、労災の発生については会社としても厳しい評価をせざるを得ない。再発防止と周知徹底をして頂きたい。工場は安全第一、事務所は販売力強化をすることで、エコアクションの実績についても改善化されるように努めて欲しい。また、エコアクションの活動については、社員への周知徹底について一層の強化をするように。

丸喜鋼業株式会社 代表取締役 川口 貴弘